◎ Meat free 1Day Campaign 2010〜2014 / 週一ベジ活動キャンペーン

Aisis
MEAT FREE 1DAY CAMPAIGN

RSS

- ホーム
- 1アクションプラン
- ピース＆エコフーズ
- 世界のミートフリーデー
- 支持者紹介
- コンタクト

誰もが簡単にできる行動だけど…地球環境に貢献できる

アメリカの場合、肉をやめて、完全ベジタリアンに切り替えれば年間約1500KG（1,5トン）のCO2を減らすことが可能です。日本人が年間食べている肉の量はアメリカ人と比べたら約3分の1です。その基準で考えれば日本で肉をやめて、ベジタリアンに切り替えれば年間約500KGのCO2を減らすことが可能です。セミベジタリアンでも約200KG減。ベジタリアンの料理に切り替えることで、私たちは京都議定書のCO2削減目標の約半分近くを達成！！

最近、日本でよく見られる「CO2削減ヒント」と比較してみると、ベジタリアンになることは、CO2削減のすばらしい「近道」であることが分かります。つまり、☻
日本でよく見られる「CO2削減ヒント」
1. シャワーを毎回1分減らす＝約20KG/人/年
2. 毎日テレビを見る時間を1時間減らす＝約13KG/人/年
3. 買い物をするときに、マイバッグを＝約20KG/人/年
4. ベジタリアンになる＝約500KG/人/年

日本人はかつて穀物中心の食生活でした。　しかし、高度経済成長を境に食生活は大きく変化し、肉類を多く摂取するようになり、その結果、相対的に穀物を食べなくなったのです。　ところが、直接食べる穀物は減ったものの、間接的に消費する穀物は増えた計算になります。　肉類中心の食生活というのは金額が高いだけでなく、環境負荷も高い贅沢な食生活であるといわざるを得ないのです。　家畜に与える穀物がありながら、一方では世界的な飢餓が進行しているというほど皮肉な話しはありません。　人が飢えているのに、家畜は飢えないというのが世界の現状なのです。　食糧問題というと人口ばかりに注目されがちですが、人口の多さも然ることながら、食生活の内容も重視して考えなくてはなりません。　牛よりは豚、豚よりは鶏、そして鶏よりは穀物をより多く食べることにより、消費する穀物の量は全体としては減少することになることに着目すべきでしょう。　野菜と穀物を中心とする日本の伝統的な食生活を見直すよい時期ではないでしょうか。日本の食事は健康にも良いのです。

MORE

週に一日だけ「MEAT FREE 1 DAY」してみませんか

誰もが簡単に…特別な時間を設けることなく…家に居ながらにして…お年寄りから赤ちゃんまで出来る…ゆるエコ活動！

めまぐるしく移り変わる時代の中で、忙しく過ぎ去る時間、迫り来る環境の問題、人々は環境活動や社会貢献活動を思う反面、忙しさの中で思うとおりの時間がとれないジレンマに陥る方も多いと思われます。そんな方々に提言します。できる所からでかまいません。生活のリズムもそのままでかまいません。ただ、ちょっと見直してみてください。毎日の生活を…一人の行動は小さくても、多くの人が行えば、大きな波となって、地球環境に貢献できると考えます。

『アイシスプロジェクト』＝ライフスタイル改革
└地球を愛し・全ての生命を慈しみ・世界中の人々が幸せとなり・素晴らしき未来を築く計画
└愛・地球博の理念を継承し生物多様性保全のためライフスタイル改革を推進します。
毎日の生活ちょっと見直してみませんか？私たちが、今まで行ってきた生活は、大規模な森林伐採をし、大量の水を消費し、大地を汚染し、又、健康を害し、精神を狂わせてきた、いわゆる破壊的生活であったと思います。
これからは、全ての生命を慈しみ、大自然と共存・共生し、又、自身の心と体に優しい、蘇生的生活に切り替えていく、ブランドチェンジしていく必要があると考えます。

アイシスジャパン活動履歴

主な普及啓発

- 生物多様性COP１０@ステージイベント
- 生物多様性COP１０@フォーラム
- コープあいち小幡@エコクッキング２０１０
- コープあいち小幡@エコクッキング２０１１
- 生物多様性EXPO大阪@ミニプレゼン
- メッセ名古屋２０１０@２号館プレゼン
- ナゴヤピーガングルメ祭@プレゼン
- コープあいち小幡@エコクッキング２０１２

AISIS JAPAN　403 PRINCESSYAGOTO 1-47-2 IKEMI TENPAKU-KU NAGOYA-CITY.
FAX: +81 52 846 8167
E-MAIL:

Aisis
MEAT FREE 1DAY CAMPAIGN

RSS

- ホーム
- １アクションプラン
- ピース＆エコフーズ
- 世界のミートフリーデー
- 支持者紹介
- コンタクト

飢餓のない平和な世界へ

「飢餓」になるのは、食糧が十分につくられていないからではありません。穀物は年間 23億トン生産されています。これは世界中の人が生きていくのに必要な量のおよそ2倍になります。

23億トン（年間穀物生産量）÷70億人（世界の人口）⇒ 328KG（1人当たり）
※1人当たり1年間の標準量は180KG
それでも食べ物の不足している人がいるのは、どうしてでしょうか？ 1人当たりの食糧供給量を比較すると、日本では必要なカロリーより 33%も多く、ソマリアでは16%不足しています。私たちのように食べるものがいつでも十分手にはいるのは、世界のおよそ2割の人だけなのです。
穀物は人間が食べるだけではなく、先進国では穀物の６割（約4億トン）が、ウシ、ブタ、ニワトリなどの家畜のえさになっています。
牛肉1キロ作るために穀物8キロ、豚肉1キロ作るために穀物4キロ、鶏肉1キロ作るために穀物2キロを消費しています。結果として、世界の 2割足らずの先進国にすむ私たちが世界の穀物の半分以上消費しているのです。

MORE

持続可能な環境へ

国連食糧農業機関（FAO）の報告書によると、畜産は、二酸化炭素で比較すると輸送手段より5パーセント多くの温室効果ガスを放出しており、また、陸地や水の環境劣化の主要な原因となっている。

この報告書の責任者であるヘニング・スタインフェルドFAO畜産情報政策部部長は、畜産は今日の最も深刻な環境問題を引き起こしている最大原因のひとつであり、この状況を改善するための緊急な措置が必要であるという。
世界の温暖化に影響する、温室効果ガス排出量
・世界の運輸　約13%
・世界の牧畜業　約18%
※WRI 世界資源研究所
暮らしが豊かになって、肉や乳製品の消費量が年々増加し、世界の食肉生産は１９９９年/２００１年の２億２９００万トンから２０５０年には４億６５００万トンへと倍増、乳生産量は５億８０００万トンから１０億４３００万トンへ増加すると予測されている。・・・現在のままで行けば、限りある地球は持たないだろう。いまこそライフスタイルを見直すときでは・・・

MORE

自然に健康になる暮らし

（MCGOVERN REPORT）要約すると、「高カロリー・高脂肪といった、肉・乳製品・卵等の動物性食品を減らし、できるだけ精製しない穀物や野菜・果物を多くとるように」と勧告しています。

１９６０年代当時、アメリカでは心臓病の死亡率が第１位で、ガンは２位でした。国民の心臓病だけでアメリカの経済はパンクしかねないと言われる程、医療費が増大し深刻な事態になっていました。　１９７７年、医療費が１１８０億ドル（約２５兆円）にもなり、なんとか財政的危機を打開するために医療改革が進められました。　その一環として上院に『国民栄養問題アメリカ上院特別委員会』を設置し、全世界から当時各分野での最高峰の優れた医学・栄養学の専門家が集められ、『食事(栄養)と健康・慢性疾患の関係』について世界的規模の調査・研究が７年間の歳月と、数千万ドルの国費を投入して行われました。その結果、５０００ページにも及ぶ膨大な報告がなされました。それを「上院レポート」、または、委員長ジョウジ・S・マクガバンの名前をとって「マクガバンレポート」とも呼んでいます。

MORE

AISIS JAPAN　403 PRINCESSYAGOTO 1-47-2 IKEMI TENPAKU-KU NAGOYA-CITY.
FAX: +81 52 846 8167
E-MAIL:

HOME　1ACTION　ECOFOODS　WORLDMFD　CLIENTS　CONTACTS

Aisis
MEAT FREE 1DAY CAMPAIGN

RSS

- ホーム
- 1アクションプラン
- ピース&エコフーズ
- 世界のミートフリーデー
- 支持者紹介
- コンタクト

世界のミートフリーデイ

持続可能な未来に向けての、週に一度のミートフリーデイの活動が世界各地に広がっています。

2009年6月、ポール・マッカートニー氏を中心に、「ミート・フリー・マンデー（肉なし月曜日）」のキャンペーンを開始。ハリウッドセレブや有名シェフ多数がこれを支持。

- 2012年6月、ニューヨーク州の6つの学校が「肉なし月曜日」を導入
- 2012年2月、ドイツ-インゴルシュタット市「菜食の木曜日」公式導入。
- 2012年2月、国連が台湾の教育部政務次長をアジアに菜食を広めている活動で表彰。
- 2012年2月、カナダ-オンタリオ州マーカム市が「肉なし月曜日」を６週間試験的に導入。
- 2011年7月、フィリピン科学技術省が「肉なし月曜日」の全国キャンペーン開始。
- 2011年4月、米トヨタ、米肉務省も「肉なし月曜日」に参加！
- 2011年2月、スイス-ローザンヌの小学校が週一ベジーデイを採用！
- 2010年11月、台湾-全学校の85%以上で菜食給食導入！
- 2011年5月、ベルギー首都ブリュッセルが「菜食の木曜日」を公式導入！
- 2011年1月、オランダで欧州初のベジタリアン肉屋が誕生！
- SED AN SRE EMAET PORT GASLELU MILSIT

MORE

持続可能な未来のためにライフスタイル転換

地球の気候変動が臨界点に近づいていると、国連が最新の報告書で警告した。2012年06月

約６００人の専門家が携わり３年をかけてまとめられた報告書は５２５ページに及ぶ。専門家らは地球の未来について極めて暗い見通しを示した。北極などの氷床の融解、アフリカの砂漠化、熱帯雨林の森林破壊が、私たちが想像しているよりはるかに急速に進行していると指摘した。
国連環境計画（ＵＮＥＰ）のアヒム・シュタイナー事務局長は記者会見で人類はもう「生き方を変える」より他に選択肢がない地点に来たのだと続けた。「針路を変えることは可能だ。違う方向に向かうことはできるはずだ」

地球環境への脅威、食生活改善が必要＝カナダ研究
地球温暖化を引き起こす温室効果ガスを抑え、地球環境をより安全な状態に保つためには、人類が肉を食べる量を減らす必要があるとする学術論文を、カナダのダルハウジー大学の研究チームが４日に発表した。

MORE

THINK GLOBALLY,ACT LOCALLY！
これは「地球レベルで問題を把握して、目の前の小さなことから実行に移そう」ということを述べています。牛の飼育が地球環境を恐ろしいほどに破壊し続けているという事実は、まだほとんどの人が気づいていないかもしれません。まずその事実を知ることも大事だと思います。しかし、牛肉生産の増大によって地球レベルで進行しつつある環境破壊を、一人の人間の努力で止めることはとてもできないことですが、週に一度「肉を食べるのを減らす」ということも、立派な「ＡＣＴ　ＬＯＣＡＬＬＹ」になるのでは・・・

MORE

AISIS JAPAN　403 PRINCESSYAGOTO 1-47-2 IKEMI TENPAKU-KU NAGOYA-CITY.
FAX: +81 52 846 8167
E-MAIL:

Aisis
MEAT FREE 1DAY CAMPAIGN

RSS

- ホーム
- 1アクションプラン
- ピース&エコフーズ
- 世界のミートフリーデー
- 支持者紹介
- コンタクト

RELATED LINKS

中部ESD拠点推進会議
このホームページは「国連・持続可能な発展のための教育（ＥＳＤ）の10年」運動を受けて組織された「中部ＥＳＤ拠点推進会議」が、わたしたち人類の持続不能性を解決し、持続可能な道を探し出す一助となり「社会の改善」と「個人の学習」に役立つよう運営しています

中部ESDサイバー対話
このホームページは、自然を破壊し生命を傷つけ人間どうしで争う愚行の原因は何なのか、これらの問題を真摯に受け止め、わたしたちが歩むべき道を探る「ＥＳＤサイバー対話」と「ＥＳＤ活動」を紹介するものです。

中部ESD白熱講座
原発依存によってのみ可能であった「大量生産、大量消費・廃棄型社会」から再生可能エネルギーへの転換による「持続可能な自立分散・地域循環型社会」への変革の為の教育を目指しています

中部ESD拠点
国連は2005年1月からの10年を「国連　持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」（2005－2014）とする決議を行いました。ここで期待されている「教育（ESD）」とは、大学などの学校教育（公約教育）と市民や地域社会、企業が行っている学校外教育（生涯・社会教育）が互いに連携しながら地球規模の課題である環境、人権、人間の安全保障、健康福祉、ジェンダー平等、エネルギー、資源、地域経済再生、貧困の撲滅、生涯教育、まちづくりなど持続可能な社会に向けての活動、教育を指します。

INFORMATION

「今の環境を未来の子供達にこのまま伝えていいのだろうか」そんな想いをからアイシスジャパンを立ち上げました。私のできることは小さな事ですが、今の社会に一石を投じることによって波紋が広がって行けば良いのかと思っています。多くの皆様のご支援に感謝いたします－アイシスジャパン新川 男－

２０１０年の生物多様性COP10に続いて、２０１４年１１月にはESDユネスコ世界会議が開催されます。アイシスジャパンとしても、COP10のステージやフォーラムのサイドイベントに続いてフォーラム等のサイドイベントを計画しています。是非多くの皆様と持続可能な未来について、考えていきたいと願っています

COLLABORATION

「食」を通じて「持続可能な未来を考える」をテーマに新しい形態での講演会をコラボしませんか？
参加していただいた方の心に響き、何より足を運んでくださった方が楽しんでいただけるを一番とした新しい形態での学びの場を行いませんか？是非いろいろな業種の企業様とコラボレーションできればと考え、日々研鑽しています。関心の持たれた方、気軽にメール連絡して下さい。
また、支持者紹介ページに掲載希望の方も気軽にご連絡下さいね。

FACEBOOKPAGE　　FACEBOOK

OFFICIALMAIL

CLEAR　SUBMIT

AISIS JAPAN　403 PRINCESSYAGOTO 1-47-2 IKEMI TENPAKU-KU NAGOYA-CITY.
FAX: +81 52 846 8167
E-MAIL:

HOME　1ACTION　ECOFOODS　WORLDMFD　CLIENTS　CONTACTS